

TOKYO●2020
CANDIDATE CITY

日本選手の活躍 なくして、効果なし

北野建設 スキー一部GM 荻原 健司

92年アルペーンビル冬季五輪、94年リレハンメル冬季五輪ノルディック複合団体金メダル。早大卒業後、北野建設入社。冬季五輪に4度出場。競技者引退後、参議院議員。現在、北野建設(株) スキー一部General Manager



2020年東京招致に伴う効果はすでにさまざま言われており枚挙にいとまがないし、私もそうなることを期待している。ところで、招致の効果は招致さえすれば確実に期待できるというものではない。招致の効果を最大化するための鍵、それは日本選手の活躍にある。

来年2月、ソチ冬季五輪が開催される。北野建設スキー部に所属する5名の選手全員をソチの日本代表にするのがGMとしての私の目標である。実は、所属選手全員が五輪日本代表になったことは創部以来ない。42年の歴史の中でいよいよ実現できるチャンスが到来したと思っている。所属選手の多くは「メダル獲得」を目標としている。各種国際大会のメダリストたちとすれば当然の目標である。日ごろの指導において一番重要だと感じていることは、選手に自信をつけさせるということだ。確かにウチの選手は自信にあふれた者ばかりではあるが、それでも重要であることに変わりはない。

「私は、できる」という気持ち、その心をもって大きくすることができたら。すなわち「自己効力感」(物事を成し遂げる力が自分にあるという感覚)をどれだけ持たせられるか、である。もちろん、スポーツの世界において技術や体力が重要なことは言うまでもない。しかし、心こそ強くすることができればどんなに厳しい練習にも耐えうることができるし、何よりその心こそが五輪という舞台で闘うための一番の要だからである。

64年東京、72年札幌と五輪に沸き立った日本。燃えさかる聖火と大観衆の中、日本人選手が活躍した。多くの人々が「日本人は、できる」ことを確信した時ではなかったか。勇気や元気の源泉である「自己効力感」を日本人全体が共有したことだろう。そして、そのことこそが、当時の高度経済成長の下支えでもあったのではないかと推察する。

私たちが忘れてならないのは、効果を生み出すのは人である以上、その人々の内発的なエネルギーこそが重要だという認識だ。それこそが招致の核心的部分ではなかろうか。

招致が実現し、そこでの日本人選手の活躍は、今の世代に、そして、新しい世代に間違いなく「私は、できる」の心を持たせることができる。だから、2020年東京招致の最重要課題は選手育成なのである。